
CAR LOVE LETTER 『Sunny day cruise』

YAS

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

C A R L O V E L E T T E R 「S u n n y d a y c r
u i s e」

【Nコード】

N 7 2 1 5 H

【作者名】

Y A S

【あらすじ】

夏休みに免許取得が間に合った高校生。夏休みに彼女とドライブデートを企画するが・・・。(テーマ車種：日産サニー) (N15) (

(前書き)

車と人が織り成すストーリー。車は工業製品だけれども、ただの機械ではない。

貴方も、そんな感覚を持ったことはありませんか？

そんな感覚を「CAR LOVE LETTER」と呼び、短編で綴りたいと思います。

<Theme:NISSAN SUNNY(N15)>

やっと念願の免許が取れた！

毎日二時間乗車して、土日も学科を受けまくって、ギリギリ何とか夏休みに間にあった。

これで今年は海へ山へ、行動範囲が一気に広がった。

彼女に報告メールを打つ。速攻でおめでとうレスが届き、夏休みに海行こうよ！と書かれていた。

彼女とは付き合い始めてまだ半年。デートでは、最近やっと手を繋ぐ様になった程度。

それが車で海行こうなんて・・・何だか色んな想像をしてしまう。

俺は親父に頼みこみ、車を借りる約束を取りつけた。

うちの車は、もう10何年も前からある、ボロいサニーだ。

道具は壊れるまで使うがモトターの親父。車もご他聞に漏れずだ。

古いしダサくて仕方がないが、高校生の身分では、こんな車でもあるだけでした。

俺は外見ではなく、車があるという現実を重視することにした。

彼女と遊びに行く日取りを決め、何時に迎えに行つて、どこの海水浴場に行つて、じゃああたしお弁当作るねなんて話をして、気付いたらもう夜中の1時を回っていた。

海に行く事を考えていたら、結局そのまま眠れなくなり、俺は完徹で終業式に出る羽目になってしまった。

海へ行く当日、天気はかなりの曇り空だった。雨が降らなければいいんだけど……。

教習所の卒業の時もらった若葉マークをサニーのトランクに貼ってみたが、あまりにもかっこ悪いので、すぐに剥がした。

その日俺はちょっと寝坊してしまったので、急いで彼女の家に向かう。

初めて一般道をサニーで走る。教習車とは感覚が全然違う。俺、ちょっとびびってるのかな。いやいや、平気平気。

と思っていると、曲がらなければならぬ交差点を通り過ぎてしまふ。

「いっけね！」とブレーキを踏んだ途端、後ろから目一杯クラクションを鳴らされる。

「やっべ、どうしたらいいんだろう。落ち着け、俺！」

かなりぐるりと遠回りしつつも、何とか彼女の家にとどり着いた。約束の時間からはもう一時間近く経ってしまった。

彼女は水着の入ったトートバッグとお弁当の入ったバスケットを抱えてサニーに乗り込んできた。

「大丈夫だった？心配したんだよ！」という彼女の言葉に「ん……ちよつと、道混んでてさ。」と俺は適当に取り繕う。

彼女を乗せて海へ向かう。何となくまた雲行きが怪しくなってきた。

海へ向かうには、交通量の多い国道を通らなくてはならない。しかも今日は週末も重なり、かなり車通りも激しい状況だ。

彼女が昨日の歌番組の話とか、お笑いのあの人が芸能人の誰と付き合ってるとか、いろいろ話して来ているが、俺はほとんど聞いちゃいない。

この国道のめまぐるしく変わる状況について行くのがやっと。会話なんて出来たもんじゃない。

「どーしたの？つまんないの？」と彼女は聞いて来るが、いや、そういう訳じゃないんだ。

国道を一時間も走った頃、何と雨粒がフロントウィンドウを濡らし始めた。マジかよーっ！

彼女も同じく、えーっ！と叫ぶ。

なんだよまいったなあ。夜までの予定が総崩れじゃないか。

とりあえず海水浴場まで向かってみるが、雨脚は強くなる一方。

彼女の方から「もういいよ、違う所行こう。」と切り出してきた。

いろいろプランニングしてきたんだが、こうなっては仕方がない。映画にしようか。確か話題作がやっているはずだ。

俺は映画館のあるショッピングモールに向かった。そこなら、映画の後もウィンドウショッピングとかで楽しめるはずだ。

しかし難関が待ち受けていた。それは、車庫入れ。

休日の大型ショッピングモールの駐車場、しかも俺にとって生涯初の校外での車庫入れだ。

予想にたがわず、屋内駐車場は満車の表示。

出来れば車の少ない臨時駐車場に入りたいが、雨も降っているし、第一車庫入れに自信が無いだなんて、彼女にはかつこ悪くて言えやしない！

当然屋内駐車場だ。

ぐるぐると場内を周り、やっと空きを見つけた。隣の車との隙間が物凄く狭く感じる。

そろそろとバックする。ヤバイ、どれくらい寄っているのか全然わからない。

彼女に降りて見てもらいたいんだが、もちろんかつこ悪いのでそんな事は言えない。

もう一度トライしよう。車を前に出し、再度のろのろと下がると、がしゅん！と言う音が軽い衝撃を伴って聞こえてきた。

まさか……。少しの間思考がフリーズした。不安そうな表情の彼女。

やってしまった。隣の車のバンパーの角に、しっかりとサニーのバンパーが食い込んでいる。

やっべー!!!

どうしたらいいのか、もう完全にテンパっている。

そこへ上手い具合に隣の車のオーナーが現れる。

「こら！お前何やってんだ!!!」

物凄い剣幕で怒っているが、どうしたらいいのか皆目分らない俺にとって、その人の存在はありがたかった。

その人の指示通り、警察に連絡し、親に連絡し、その後の指示をおいだ。

警察が来るまで、高校生の分際で車なんか乗るなだとか、広い砂利駐車場で練習しろだとか、彼女の前ですっこすこになじられた。

悔しかったが、俺は罪の意識半分、テンパってた俺を救ってもらえた感謝の気持ち半分で、ただひたすら謝るのみだった。

警察が到着し、事故調査が終わると、俺は今度はお巡りさんに叱られた。初心者マークを貼っていない事についてだった。

「あのマークは未熟なドライバーをベテラン達を守るためと、自分が未熟なドライバーであることを意識するための物だ。それをかつこつけ程度の考えで外すなど言語道断。安全意識のかけらもない！」と、事故調査よりもたっぷり時間をかけて説教された。

事故処理は保険屋さんをお願いし、ひとまずこの場はお開き。俺も彼女も完全にヘコみ、映画どころの気分ではない。もう帰る事にした。

彼女の家に向かう間、俺達はずっと無言だった。彼女の用意してくれたお弁当のバスケットも、結局開くことはなかった。

ああ、こういうトラブルから別れたりしちゃうんだろうか。俺はそんなつまらない想像をしながら。雨の中サニーを走らせた。

彼女の家に到着する。もう門限ギリギリの時間だ。電車だったら、あそこからここまでこんな時間に掛らないのに。俺は今日車でデートした事を心底悔やんだ。

別れ際、彼女が思い掛けない事を口にした。

「今日は、ありがとう。きっと次はもっと楽しいよ。またドライブ連れてって。」

彼女が玄関に消えてから、俺は涙が止まらなくて、本当に困ったんだ。

家に帰ってからは、今度は親父にもこっぴどく叱られた。もうこんな事は懲りごりだ。そう思った刹那、親父がこう言った。

「新車購入はしばらく先だな。サニーでうんと練習しろ！」

後でお袋に聞いた話だが、親父は俺が乗ることを見越して、随分前からサニーの保険を切り替えてくれていたという。俺はまた、涙が止まらなくて、本当に困ったんだ。

数日後、最高に天気の良い日に、俺は改めて彼女をドライブに誘った。

もう変に背伸びなんかしない。誰だって初心者頃があるんだから。サニーのボンネットとへこんだお尻に、しっかりと初心者マークを張り付けて、俺は誇らしげに彼女を迎えに行ったんだ。

彼女はそれを見て「意外とカッコいいじゃん！」と太陽のように微笑んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7215h/>

CAR LOVE LETTER 「Sunny day cruise」

2010年11月4日13時42分発行